

# ペンテコステ・聖霊降臨日礼拝

2023年5月28日(日) 午前10時30分

司式 牧師 姜 徑米

前 奏

招 詞 ヨハネによる福音書4章23節

讃 詠 II編9

主の祈り

聖 書

イザヤ書 42章1～9節 (旧1128)

テサロニケの信徒への手紙一1章2～10節

(新374)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 177 (1, 2)

説 教「聖霊による喜び」牧師 高橋和人

祈 禱

洗 礼 式 (日本基督教団信仰告白)

讃 美 歌 199 (1, 2)

聖 餐 式

献 金

頌 栄 541

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

## 5月の祈り

ペンテコステの恵みを覚えて、聖霊の導きにより、困難な中にも信仰が力づけられ、慰めが与えられ、終わりの時の希望を持つ教会としての歩みを果たすことができるように。

戦火のもと、苦しみと不安の中にある人々に主のみ手が伸べられ、癒しと慰めが与えられるように。

犠牲者が減らされ、平和がもたらされるように。教会学校、幼稚園の子どもたちが守られるように。

東京教区の諸教会を覚えて。

## 今日の祈り

聖霊の恵みである、教会、聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命についての信仰を深め、信仰者としての歩みを確かなものにする。

聖霊によって、礼拝と伝道が力づけられるように。

「聖霊による喜び」 高橋和人

テサロニケの信徒への手紙一1章2～10節

この手紙は新約聖書の中でも最も早く書かれた。ペンテコステによる教会誕生間もない時の教会の姿を知ることができる。教会はその始まりを大切にしてきた。遡ることを大事にした。それは主イエスに結びつくからだ。伝統は主イエスに遡る流れの道筋のことだ。主に立ち帰ることが教会の命を回復させてきた。

それは、今も教会を導いている聖霊の生き生きした働きを取り戻すことだ。主に立ち帰ることはいつの時代も教会を刷新してきた。

この手紙には聖霊の働きがはっきりと描かれてい

る。そこに「わたしたちの福音があなたがたに伝えられたのは、ただ言葉だけによらず、力と、聖霊と、強い確信とによったからです。」(5節)と福音が伝えられるのは、言葉だけではなく、聖霊によるという。福音は言葉と聖霊が両輪のように働いて伝わる。ペンテコステによって弟子たちが語り始めた。聖霊が弟子たちに説教を語らせ、それが教会を形作っていった。

説教が福音として伝わるのは、それが自分に語られていることが分かるときだ。人の言葉ではなく、聖霊が語り掛けてくださる、そのように聞かれることだ。

パウロはテサロニケの教会を思い祈る。まず感謝。その労苦と忍耐を心にとめている。そこに聖霊が働いている。忍耐の時にこそ聖霊が働かれていることが明らかになる。「そして、あなたがたはひどい苦しみの中で、聖霊による喜びをもって御言葉を受け入れ、わたしたちに倣う者、そして主に倣う者」(1:8)となったという。

苦しみの時こそ、何に信頼し何を基準に生きているのかが分かるからだ。パウロは忍耐強い信仰を持つこの教会を「いとおしく思っていた」(2:8)。そして、「わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れた」(2:13)という。

人の言葉が神の言葉として聞かれる。それは聖霊の存在なしにはあり得ない。そのように聖霊の働く教会にはいとおしさがもたらされる。そのような教会は主に倣う。それは十字架の苦しみを負う主に倣うことだ。そして、復活の御子の待望に生きることができる。